

93-94 学年第二学期 新学期开始

开学已经近两个月了，“中心”的通讯才刚刚出笼，真是久违了。在此首先祝大家在新学期里学业有成！

本学期除了上学期继续留任的5位专家外，另有9位专家来“中心”任教（名单参照公开讲座日程）。还招聘了2名客座教授、10名客座研究员（名单参照下页）

简 讯

☆ 3月9日，中日对外友好协会会长、“中心”客座教授孙平化先生对“中心”广大师生进行了“当前的日本政局”的报告，深受欢迎。

☆ 3月10日，日本国际交流基金北京事务所在长富宫隆重举行开所典礼，由小熊旭任所长，马场克树任副所长。

☆ 3月18日晚，“中心”为8期生举办了赴日欢送会，院领导、“中心”教职工及日方专家们出席了欢送会。会上基金北京事务所小熊旭所长作了对8期生寄予厚望的讲话。

☆ 3月20日，8期生的18名同学赴日研修，他们将在为期半年的时间里，在导师的指导下，进行资料收集、撰写硕士论文的工作，预定于9月20日回国。

☆ 3月中旬由辰巳正明教授和助教班同学举办的诗意浓浓的《北京句坛》创刊了。欢迎爱好俳句创作的各界人士踊跃投稿，积极参加到这个活动中来。

☆ 3月30日18:30“中心”在“明星酒楼”举行了新到任专家欢迎宴会，除了新任的9名专家及夫人，原有的专家、“中心”的教职工、国家教委、基金北京事务所、北京外国语大学的有关人员出席了宴会。

☆ 3月31日，“中心”举行了7期生毕业典礼，会上李书成代理主任、竹田主任教授、基金北京事务所的所长助理张利利女士作了讲话，希望7期生毕业后继续为中国的教育事业、中日友好事业、“中心”的发展努力。7期生代表也讲了话，表示不辜负大家的期望。

☆ “中心”派遣的第3批博士生3人已通过了各所在大学的考试，升入了博士课程。

第4批博士生4名已于4月4日、6日赴日(名单见下页)。

☆ 4月7日举行了本学期第一次公开讲座,由竹田晃主任教授主讲,题目是〈中国论怪异的传统〉,本次讲座深受“中心”学生欢迎。以后将按惯例(每周四下午)举办公开讲座。

☆ 4月8日下午2:00客座研究员首次发表会召开。语言文学研究室的譙燕、揭侠分别发表了〈语言的节奏〉、〈日本私小说中对自我的把握〉的论文。

☆ 4月9日“中心”组织专家春游,参观了慕田峪、雁栖湖,游兴勃勃的19名专家及夫人参加了这次活动。

☆ 第6届日本学中日学术研讨会将于5月18-21日举行。本届研讨会报名者共94人,是历年来最多的。经中日双方委员会严格审查申请者提交的论文后,录取了其中的50人(语言分科会16人,文学分科会13人,社会分科会11人,文化分科会10人),录取通知书已于4月12日发出。

☆ 4月22日,应国际交流基金北京事务所和“中心”的共同邀请,日本著名的文化界学者、文艺评论家加藤周一将在“中心”作报告,题目是〈中日文化交流的课题〉,欢迎广大师生、日本学爱好者们参加。

出版动态

〈中国日本学研究文献目录汇编〉即将脱稿付梓

我国首部日本学研究文献目录汇编,经二年多四十多人的共同努力已基本编纂完毕。全书收集了我国自秦汉至1993年3月31日(包括部分港台研究成果)在中国出版的日本研究的著、译作目录,共分17部分,总字数约350万字。该书是我“中心”的一项重要科研项目,将于1995年“中心”成立十周年时出版问世。

本中心编辑的〈日本学研究3〉已于1994年1月由今日中国出版社正式出版发行。本期论集共收集优秀论文25篇,内容涉及日本语言、文学、社会和文化。这些特色各异的文章其共同点是:求证严谨,见地独具。它既是我国在日本学研究方面的新成果也是今后研究的新起点。另外,意欲赐稿本刊者请注意阅读本期附后的投稿规定和执笔要领。(揭侠)

第八届赴日研究生欢送会小熊旭所长致词

各位先生，晚上好。

今天有18位研究生即将赴日研究，完成硕士论文的撰写。在你们临行之前，我能和大家见面，感到很高兴。那么就允许我代表国际交流基金北京事务所讲几句话。

半年的时间是非常短暂的。你们当中也许有人想，为了能充分利用时间，又要写好论文，又要体验生活，要作的事情太多，有些不知所措。这是自然的。因为你们这次研修，机会难得，你们肩负着完成硕士论文的任务，也肩负着艰巨的社会任务。中国有句话，叫做“追两兔者不得一兔”。我想，一般来说，这句话很有道理。但是，只要你们安排好时间，有效将生活体验与学习相结合，在写论文的同时，认真而轻松地体验日本人的生活，了解日本，充实和扩大自己的知识范围，最后，又能成为将论文写得更为精彩的素材。这岂不既是追两兔者又能得到两兔。用中国的另一句成语来讲，为“一箭双雕”。

半年时间，转眼而过，我相信你们会有效利用时间，通过学术研究和日本现代生活的体验，能出色完成学业，获得更大成果。

日本人经常说：学习得拼命，玩儿得也拼命。希望你们入乡随俗，努力学习，生活愉快，身体健康。

慕田峪郊游

小池喜明

明治时期的各种文章读本中必定载有郊游感想文的范例，开头部分常有这么一句「汽车很快驶出了停车场。」

汽车很快驶出了友谊宾馆。

慕田峪在哪儿？原来这字是怎么念的？某天午饭时，北京周报的布拉德说：“慕田峪是个好地方。”慕田峪这几个字我不会念，那他肯定也不会用日语发音。若他用汉语说，那我也不可能明白。那为什么我们能互相听懂呢？原来他说的是长城。对连慕田峪是长城的一部分都不清楚的我来说，他说的话我全然不懂，只知道慕田峪是个好地方。不管怎样，去看看那未曾见过的山吧，青山巍然耸立在蓝天中。

评慕田峪则有“如水墨画般具幻想”之语。大概不然吧。身临其境后才知“巍巍”的汉语真是恰如其境。急忙取出照相机，不想启动不了，原来电池没了。对老妈还是不说为好，否则又得挨骂了。”你这孩子从小学起就……”

坐缆车到顶上仅3分钟。年轻人（自以为年轻者）则徒步爬上。午饭是我所期待的饭团子。谢谢。归途中竹田主任买了明信片，十五块。虽觉得贵了点儿，也跟着买了下来。刚走二十米，不想卖主以五元出售，也买了下来，就当平均十块吧，这样心

情可以平衡一点。最近我觉得似乎人格也在降价。

驱车来到雁栖湖畔。虽是堰堤人造湖却有着如此浪漫的名字，白发三千丈的修辞传统俨然健在。从登上游览船那一刻起郊游的气氛高涨起来了。旧米格战斗机展示在那里。男同胞们边看着“照相收费”的标记，边议论道“光照相也要收费？”谈兴盎然。我和李德在湖边刚抽上一口，陈海良嘀咕了几句，一问，则是“罚款”，大家大笑。心有灵犀一点通，郊游确实成功了。

五点到达友谊宾馆。大家都松了一口气。虽说只呆了一个月，却感到已经到家了，这么说还得洗袜子。

1994春学期 <新派遣教授一览表>

| 姓名 | 单位、职务 | 担当课程 | 派遣时间 |
|------|--------------|-------------|----------------|
| 大矢根淳 | 常磐大学人文系非常勤讲师 | 社会学、社会学演习 | 94.2.22-94.7.1 |
| 小野正弘 | 鹤见大学文学系副教授 | 日语研究II、演习II | 94.3.28-95.1.2 |
| | | 日语语言学各论 | |
| 小池喜明 | 东洋大学文学系教授 | 思想史、思想史演习 | 94.3.9-94.7.15 |
| | | 日本文化思想史 | |
| 佐佐木馨 | 北海道教育大学函馆分校教 | 文化史、文化史演习 | 94.3.27-94.7.1 |
| | | 日本文化思想史 | |
| 清水展 | 九州大学教养系副教授 | 社会文化论、演习 | 94.3.10-95.1.6 |
| 辰巳正明 | 大东文化大学文学系教授 | 日本古典文学、演习 | 94.2.25-94.7.1 |
| | | 日本文学论(古典) | |
| 田所宽行 | 茨城基督教大学文学系教授 | 日语研究I、演习I | 94.2.25-94.7.1 |
| | | 日本语言学概论 | |
| 玉井敬之 | 武库川女子大学文学系教授 | 日本近现代文学、演 | 94.3.2-94.7.1 |
| 野中俊彦 | 法政大学法学系教授 | 日本法政 | 94.3.21-94.7.1 |

新任专家自我介绍

大矢根淳：31岁。专业是地域社会论、社会调查论、灾害社会论。喜好体育运动，练了15年橄榄球，最近因缺乏锻炼感觉到胖了点儿。

小野正弘：1958年生人。专业是国语学（词汇论）。中心题目是意义变化的历史性研究。爱好打弹子（在家）、象棋（三段）。

小池喜明：1939年生于东京。专业是伦理学、日本伦理思想史，对日本传统各思想与近代社会伦理的关系颇感兴趣。爱好游泳、网球。

佐佐木馨：1946年出生在秋田县。后来曾在秋田、札幌居住，现是住在函馆的北方人。对日本中世纪的国家和宗教感兴趣。喜欢到各处逛逛。目前是两个女儿的父亲。

清水 展：生我养我的地方也就是山口百惠的故乡——横须贺。若有人说这小子不咋的，那千万请您理解这都是因为那小地方的缘故！专业是文化人类学，^实菲^人研究。大学及硕士论文写的是台湾宗教方面的，来中国访问是我多年来的愿望。

辰巳正明：80字左右所介绍的我^实珍味。主办北京句坛，^实俳号曰^实珍味或李黑宗匠也。俳谐经历为49天（徘徊却为49载）。生于北海道富良野市。一妻一女。

田所宽行：在日本时我是在临海的研究室里，眺望着太平洋黑潮的水平线生活至今的。今天我来到了中国大陆的正中央，越来越深切地感到彼此的差距。

玉井敬之：由于长子已结婚，两个女儿也已独立，故能借妻同来北京。以前曾来中国旅游，十年前还曾在武汉住了一个月左右，长期在中任教还是头一次。

野中俊彦：日本法制课每周一次，时间是足足有余，所以我每天勤快地到处转转以利于增强体力，扩展见闻。我也善于交际，如果有什么活动的话，务必邀我同往。

1994年春学期☆公开讲座日程表☆

| | | | |
|------|-------|------|-------------------------|
| 第一回 | 4月7日 | 竹田 晃 | 中国论怪异的传统 |
| 第二回 | 4月14日 | 王家骅 | 儒学思想对日本古代文学的影响 |
| 第三回 | 4月21日 | 大矢根淳 | 现代日本的自然灾害——社会学对灾害研究的新展开 |
| 第四回 | 4月28日 | 武安隆 | 日本与外来文化 |
| 第五回 | 5月5日 | 玉井敬之 | 关于夏目漱石 |
| 第六回 | 5月12日 | 张 志 | 日语与中日文化交流 |
| 第七回 | 5月26日 | 野中俊彦 | 选举权与选举制度 |
| 第八回 | 6月2日 | 王晓秋 | 近代中国人的日本观的变迁 |
| 第九回 | 6月9日 | 辰巳正明 | 万叶集中的东亚 |
| 第十回 | 6月16日 | 李书成 | 日本人的“和”意识 |
| 第十一回 | 6月23日 | 田所宽行 | 初期教撰集词书里所见到的郑重表现 |

| 姓名 | 职称 | 任期 | 研究方向 | 原工作单位 | 备注 |
|-----|-------|-----------|------|-----------|-------|
| 孙平化 | 教授相当 | 94.3-94.8 | 日本社会 | 中日友好协会 | 客座教授 |
| 程 啸 | 教授 | 94.3-94.8 | 日本文化 | 中国人民大学 | |
| 陈 虹 | 讲师 | 94.3-94.8 | 日本经济 | 中国社会科学院 | 客座研究员 |
| 潘畅和 | 助理研究员 | 94.3-94.8 | 日本社会 | 延边大学 | |
| 宋金文 | 讲师 | 94.3-94.8 | 日本社会 | 北京日本学研究中心 | |
| 裴桂芬 | 讲师 | 94.3-94.8 | 日本经济 | 河北大学 | |
| 林 | 编辑 | 94.3-94.8 | 日本社会 | 中国社会科学院 | |
| 米 强 | 讲师 | 94.3-94.8 | 日本社会 | 国际关系学院 | |
| 王中田 | 讲师 | 94.3-94.8 | 日本文化 | 吉林大学 | |
| 谭 燕 | 讲师 | 94.3-94.8 | 日本语言 | 北京日本学研究中心 | |
| 胡令远 | 讲师 | 94.3-94.8 | 日本文化 | 复旦大学 | |
| 揭 侠 | 副教授 | 94.3-94.8 | 日本文学 | 南京国际关系学院 | |

北京日本学研究中心1994年3月赴日攻读博士课程人员名单

| 姓名 | 性别 | 专业及论文题目 | 日方接受学校 | 指导教授 | 备注 |
|-----|----|--------------------------------|--------|-------|-----|
| 张龙妹 | 女 | 日本古典文学 "光源氏论" | 东京大学 | 铃木日出男 | 5期生 |
| 林 涛 | 女 | 日本近现代文学 "妖"于冈地文子 | 日本女子大学 | 熊坂敦子 | 4期生 |
| 李晓东 | 男 | 日本文化 "军留学生"与辛亥革命 | 成蹊大学 | 宇野重昭 | 5期生 |
| 丁宏伟 | 女 | 日本社会 由实证研究分析日籍子 劳动供给行动变化 | 名古屋大学 | 荒山 裕行 | 5期生 |

新学期が始まってやがて2カ月になろうとしています。3月、4月の合併号をお届けいたします。まず初めに、皆様が大きな研究成果を上げられることをお祈りいたします。

今学期は、先学期から継続の5名の教授陣に加えて、新たに9名の教授が着任されました（公開講座の名簿参照）。また中国側からは2名の客員教授、10名の客員研究員が招聘されました。

ニ ュ ー ス

3月9日：中日対外友好協会会長でセンターの客員教授であられる孫平化先生が、センターの教師と学生に「目下の日本政局について」というテーマで講演され、大好評を博した。

3月10日：国際交流基金北京事務所の開設パーティーが長富宮で盛大に行われた。小熊旭所長、馬場克樹副所長のもと、北京事務所が、センターに関する今後の関係業務を取り扱うことになっている。

3月18日：8期生のための歓送会が催された。北京外大の責任者、センターの教職員、および日本側の派遣教授が参加した。歓送会では、基金北京事務所の小熊所長が8期生に対する励ましとお祝いの挨拶をされた。

3月20日：8期生18名が訪日研修に出発した。彼らは、半年の間、指導教官の下で資料を収集し、修士論文を作成する。9月20に帰国の予定である。

3月30日：新任の派遣教授のための歓迎会が、明星酒樓で開かれた。新任教授の全員と同伴の夫人のほか、留任の教授、事務員、センターの教職員、および国家教委、基金北京事務所、北京外大の関係者などが多数出席した。

3月31日：7期生の修了式が行われた。李書成主任代理、竹田主任教授、基金北京事務所の張利々所長補佐が挨拶された。7期生には今後も、中国の教育事業、中日友好事業、およびセンターの発展のために努力してもらいたいとの趣旨であった。7期生の代表も答辞のなかで、そうした期待に応えるよう最善を尽くすことを誓った。

4月7日：今学期第1回目の公開講座が開かれ、竹田晃主任教授が「中国における怪異を語る伝統」という題目で講演された。今後も慣例どおり、毎週木曜日の午後に開催の予定です。

4月8日：客員研究員の研究発表が行われた。語学文学研究の譙燕と掲侠がそれぞれ「言語のリズム」、「日本の私小説における自我の把握」という題目で発表した。

4月9日：春の遠足として慕田峪と雁栖湖にでかけた。19名の専攻および夫人方が参加した。

4月22日：交流基金北京事務所とセンターの共催で、加藤周一先生の特別講演会を開く予定です。題目は「中日文化交流の課題」です。

・センターより派遣された第3次の博士課程留学者3名は、それぞれの大学の試験に合格して博士課程に入学した。第4次派遣の4名は、4月4日、6日に出国した。

・第6回日本学術シンポジウムは、5月18～21日に開催する予定です。今回の発表申請者は今までの最高の94名であった。中日双方の委員会の厳正な審査をへて、50名の論文が採用された。（言語16名、文学13名、社会11名、文化10名）。採用の通知は4月12日に郵送した。

・辰己正明教授が、研修コースの学生らとともに、「北京句壇」を創刊された。俳句、川柳、俳詩など、皆様には気軽に、かつ是非とも投稿して頂きたいとのこと。

—『中国日本学研究文献目録』の編集作業の進展について—

わが国の日本学研究において画期的な資料となる『中国日本学文献目録（仮題）』は、2年あまりの歳月をかけ、40名を越える研究者の協力をえて、その編集作業をほぼ終了することができた。同書

は『漢書』から1993年3月31日までの、日本に関する中国人の著書、訳書（台湾、香港の刊行物や研究成果を一部含む）を集めたもので、全体を7つの項目に分類、整理している。約350万字。同書は、センターの重要プロジェクトのひとつとして、センターの創立10周年の記念戸なる1995年に刊行を予定している。

—日本での研修に出発する8期生を送別する小熊旭国際交流基金北京事務所長の祝辞—

皆さん、今晚は。今日は、18人の院生の方々が、修士論文を完成するために日本へ行くことを祝い、励ますための送別会です。出発する際に、皆さんとお会いできて大変うれしく思います。ここで、私は、日本国際交流基金北京事務所を代表して、簡単なご挨拶を申し上げます。

半年という時間は非常に短いものです。皆さんは、この期間を十二分に活用して、良い論文を書こうと思っているでしょうし、また日本の生活をしっかりと体験してこようと思っているでしょう。あるいは、やりたいことが多すぎて、いったい何をしたらよいのか決めかねて困っている人もいるかもしれません。それは、当然と言えば、当然です。皆さんの今回の訪日は、様々なことに挑戦してみる絶好の機会です。確かに、修士論文を完成するということは、並大抵ではない努力を必要とするでしょうし、皆さんはそれをしなければならない社会的な責任を負っています。

中国では「二兎を追うものは一兎も得ず」という諺があります。しかし逆に「一石二鳥」という諺もあります。その両方がそれぞれ、確かに真実の一面をついています。私としては、修士論文の完成とともに、皆さんが今回の貴重な体験から多くのことを吸収してきていただきたいと願っています。

慕田峪遠足行

小池喜明

明治時代の各種の文章読本のうちには必ず遠足の感想文の範例というのが収められていて、その冒頭部分には次の一文が置かれるのを常とした。「汽車ははや停車場をば発ち出でぬ」

汽車ははや友誼賓館をば発ち出でぬ。

慕田峪とは何処か。そもそも、この字は何と読むのか。某日の昼食時、北京週報のブラッド氏が、慕田峪は素晴らしい所だと言う。私にも読めぬ慕田峪を彼が日本語で発音できた道理がない。彼が中国語で発音すれば、私に理解出来るわけがない。どうして話が通じたのか。彼は、グレートウォールだと言う。慕田峪が長城の一部と知る由もない私には、彼の話が少しも分からなかった。ただ、素晴らしい所だということは分かった。さもあらばあれ、行きてまだ見ぬ山を見む、目に青き山は大空にあり。

慕田峪を評して、墨絵のように幻想的、の語がある。けだし然らん。「峨々」なる漢語が真に实景に即せることを知る。急ぎカメラを取出すも、作動せず。電池が切れている。老母には黙っていよう。

また、叱られる。「アナタは小学校の時から…」

ゴンドラで頂上へ。わずか三分。若い人（主観的若者も）は徒歩で駆け上がる。昼食は、待望のオムスピの御馳走になる。謝々。帰途、竹田主任が絵葉書を購入、十五元也。少し高いなと思いながらも、追隨する。二十米ほど歩くと、五元で売っている。これも購入し、平均価格十元でいささか気持ちに整理をつける。どうも最近、わが人格の日減りのほどが気にかかる。

雁栖湖に立ち寄る。たかがグムの人造湖にこの浪漫的なネーミング。白髪三千丈式の修辭的伝統は健在らしい。遊覧船に乗る頃から遠足気分は高揚してくる。古いミグ戦闘機が展示してある。「照相取費」の標示を見て、ナンダ写真をとるだけでも金をとるのか、と云い合いながらも、男共は結構楽しそうである。李徳氏と小生が湖岸で一服していると、陳海良氏が何事か言い出した。聞けば、罰金を払えと言っている由、全員で大笑いする。心が通い合ってきている。遠足は成功らしい。

五時、友誼賓館着。全員、ホッとしているらしく見うけられる。わずか一カ月の滞在ながら、ウチに戻ったという気がする。そういえば、靴下の洗濯があったっけ。

1994年春学期 < 新規派遣教授一覧 >

| 氏名 | 現職等 | 担当科目名 | 派遣期間 |
|------|----------------|---------------------------------|---------------------|
| 大矢根淳 | 常磐大学人間科学部非常勤講師 | 社会学 社会学演習 | 94. 2. 22~94. 7. 15 |
| 小野正弘 | 鶴見大学文学部助教授 | 日本語学研究Ⅱ 日本語学演習Ⅱ 日本語学各論 | 94. 3. 28~95. 1. 18 |
| 小池喜明 | 東洋大学文学部教授 | 思想史 思想史演習 日本文化・思想史 | 94. 3. 9~94. 7. 15 |
| 佐々木馨 | 北海道教育大学函館分校教授 | 文化史 文化史演習 日本文化・思想史 | 94. 3. 27~94. 7. 15 |
| 清水展 | 九州大学教養部助教授 | 社会文化論 社会文化演習 | 94. 3. 10~95. 1. 6 |
| 辰巳正明 | 大東文化大学文学部教授 | 日本古典文学 日本古典文学演習 日本文学論(古典) | 94. 2. 25~94. 7. 15 |
| 田所寛行 | 茨城キリスト教大学文学部教授 | 日本語学研究Ⅰ 日本語学演習Ⅰ 日本語学概論 | 94. 2. 25~94. 7. 15 |
| 玉井敬之 | 武庫川女子大学文学部教授 | 日本近・現代文学 日本近・現代文学演習 | 94. 3. 2~94. 7. 16 |
| 野中俊彦 | 法政大学法学部教授 | 日本法政 | 94. 3. 21~94. 7. 15 |

新任教授の一言自己紹介

大矢根淳：31才。常磐大学人間科学部非常勤講師。地域社会論，社会調査論，災害社会論専攻。趣味はスポーツで特にラグビーは15年続けているが，最近は機会がなく運動不足で少々太りすぎ。

小野正弘：1958年生まれ。横浜にある鶴見大学文学部の助教授。専攻は，国語学（語彙論）。特に意味変化の歴史的研究が中心テーマ。趣味は，パソコン（おたく），将棋（三段）。

小池喜明：1939年，東京に生まれる。専攻は倫理学，日本倫理思想史。とくに，日本における伝統的諸思想と近代社会の倫理との関わりに関心をもつ。趣味は水泳，テニス。

佐々木馨：1946年，秋田県に出生。以後，秋田，札幌で過ごし，いま函館に住む北方人。日本中世の国家と宗教に関心を示し，あちこち徘徊するのが趣味。目下の処，二娘の父でもある。

清水展：生まれも育ちも，あの山口百恵の横須賀，柄が悪いのは街のせいだ！とご理解ください。

専門は文化人類学、フィリピン研究。卒論修論で台湾の宗教を勉強し、中国訪問が年来の夢でした。

辰巳正明：自己紹介80字ほどの己かな 異珍味。北京句壇主宰。俳号は異珍味または李黒宗匠。俳諧の経歴は49日（徘徊の経歴は49年）。生まれは北海道富良野市。所謂フラニスト。妻一人、娘一人。

田所寛行：日本では海に面した研究室で、太平洋の黒潮の水平線を見はるかしながら過ごしていました。今こうして中国大陸の真ん中にやって来て、彼我の差に感慨を深めるばかりです。

玉井敬之：長男は結婚し、娘二人はすでに独立しているので、妻と北京に来ることができました。短期の旅行のほか、十年ほど前に武漢に一月ほど居たことがあります。長期の滞在はそれ以来です。

野中俊彦：日本法制の講義は週に1回で、時間の余裕があり、体力作りと見聞を兼ねて、毎日せせと街を歩き回っています。付き合いは良いほうなので、いろんな催しにはぜひ誘ってください。

1994年春学期☆公開講座日程表☆

| 回数 | 日時 | 講演者 | 題目 |
|------|-------|------|-------------------------------|
| 第1回 | 4月7日 | 竹田 晃 | 中国における怪異を語る伝統 |
| 第2回 | 4月14日 | 王家驊 | 儒学思想対日本古代文学的影響 |
| 第3回 | 4月21日 | 大矢根淳 | 現代日本の自然災害～社会学的災害研究の新たな展開に向けて～ |
| 第4回 | 4月28日 | 武 安隆 | 日本与外来文化 |
| 第5回 | 5月5日 | 玉井敬之 | 夏目漱石について |
| 第6回 | 5月12日 | 張 志 | 日語与中日文化交流 |
| 第7回 | 5月26日 | 野中俊彦 | 選挙権と選挙制度 |
| 第8回 | 6月2日 | 王 晓秋 | 近代中国人的日本観的変遷 |
| 第9回 | 6月9日 | 辰巳正明 | 万葉集の中の東アジア |
| 第10回 | 6月16日 | 李 書成 | 日本人的“和”意識 |
| 第11回 | 6月23日 | 田所寛行 | 初期勅撰集詞書に見る丁寧表現 |

北京日本学研究中心94年春学期 客員研究員名簿

| 氏名 | 職 称 | 任 期 | 研究分野 | 旧 所 属 先 |
|------|-------|-----------|------|-----------|
| 陳 虹 | 講 師 | 94.3—94.8 | 日本経済 | 中国社会科学院 |
| 潘 暢和 | 助理研究員 | 94.3—94.8 | 日本社会 | 延辺大学 |
| 宋 金文 | 講 師 | 94.3—94.8 | 日本社会 | 北京日本学研究中心 |
| 裴 桂芬 | 講 師 | 94.3—94.8 | 日本経済 | 河北大学 |
| 林 昶 | 編 集 | 94.3—94.8 | 日本社会 | 中国社会科学院 |
| 米 強 | 講 師 | 94.3—94.8 | 日本社会 | 国際関係学院 |
| 王 中田 | 講 師 | 94.3—94.8 | 日本文化 | 吉林大学 |
| 譙 燕 | 講 師 | 94.3—94.8 | 日本語学 | 北京日本学研究中心 |
| 胡 令遠 | 講 師 | 94.3—94.8 | 日本文化 | 復旦大学 |
| 揭 侠 | 助 教 授 | 94.3—94.8 | 日本文学 | 南京国際関係学院 |